

○平成 29 年 1 月 3 日（祝・火）開催  
第 2966 回例会 神戸愛山協会主催  
「第 88 回市民新年連合登山」に想う

吉野 宏（神戸愛山協会代表）

私たちの街神戸は、本年元旦「開港 150 年」という記念すべき日」で幕を開けました。神戸開港と同時に多くの外人さん達が神戸に住みつき、彼らの習慣である「毎朝の散歩」は、やがて自然いっばいの裏山へと足を延ばすようになり、この「散歩がてらの毎朝山歩（さんぽ）」が神戸市民にも真似られて急速に普及。それが「毎朝(日)登山という習慣」として根付き、約 1 世紀余りにもおよぶ「神戸の生活文化」として定着し現在に至っております。

神戸愛山協会は、この「毎朝(日)登山を行っていた神戸の山筋にある主たる登山会」が「背山の愛護と毎日登山の奨励」という共通した目的を持ってその主旨に賛同し結束、設立されたものなのです。何処からも大きなバックアップを受けずして今日まで会の運営が保たれてこられたのは、毎朝(日)登山という生活文化が、各山筋の登山会を育み、その登山会が背山を愛する同志として永年にわたり強い絆で結ばれてきたからこそなのである。

大正 12 年 1 月 3 日、第 1 回の市民新年連合登山が、再度山の修法ヶ原に於いて 59 団体、約 1500 名余りの人を集め、盛大に挙行されてから 95 年もの歴史を刻んでまいりました。加盟されている各山筋登山会会員の皆様には日々、山火事の防止活動や山筋の清掃・補修活動、又、緑化の推進など毎朝(日)登山と共に積極的に取り組んで頂いており、愛山協会の代表者として改めて心より感謝を申し上げる次第です。



（下唐櫃山王神社にて神事に参加した山筋代表者）

さて、今年の舞台は裏六甲唐櫃にある下唐櫃三王(さんのう)神社。今年 1 年の登山の安全を祈願する式の始まりは神殿に於いて、同協会会長、



下唐櫃山王神社宮司より修祓を受ける参加者  
ご来賓、山筋代者が修祓を受け、順次玉串奉奠の後、愛山協会会長、兵庫県山岳連盟代表者（副会長・松田安修氏）の挨拶と続き、司会者の音頭に



（愛山協会川崎副会長の音頭で賀詞交換）  
よって参加者全員での賀詞交換を行った後、出発となりました。この季節にしては穏やかな天気恵まれ、田園風景を眺めながら裏六甲山麓唐櫃コースをのんびり歩きました。



（初歩きへ出発した 200 名余りの参加者）  
ゴールは神鉄六甲駅すぐ近くの上唐櫃三王神社。

記念のバッジを頂き、11時20分解散となりました。神事を含めすべてのお世話を下さったからと登山会の皆様に、紙面をお借りし、革めて御礼申し上げます。



(参加者全員に配られた  
記念バッジ/唐櫃・吉田 進氏デザイン)

追記

兵庫県山岳連盟との拘りは、昭和23年2月、連盟設立時の理事並びに幹事の中に、愛山協会幹部の城谷寅一・上田浅一・阿倍八郎各氏が名を連ねておられた関係で、背山関係の協力団体として活動、現在に至っています。

天候 晴れ

参加者 232名(内ヒヨコ会員105名)

